第21号

東京都立大泉高等学校同窓会

総会だより

すっかり春めいて、上着を脱ぎたくなるような陽気となった、昭和五二年四月二四日、花曇りの空の下、豊島園内「ふるさと」にて、いずみ会総会が開かれました。

会が始まるまでの時間には、会場のあちらこちらで同窓生同志が、また同窓生と先生が親しく話しをする姿が見られ同窓会ならではの雰囲気となりました。

百名程の出席でしたが、写真でおわかりの様に卒業間もない二九期生の参加により、会場には若々しい空気が漲りました。

その新会員を歓迎する意味から、会長の池辺さんのインタビューを交えて対面式が行なわれましたが、二九期といえば昭和三三年あるいは三四年生まれ、池辺さんのお子さんとは同年代だそうで、文字どおり親子ほどの年令の違いに、改めていずみ会の世代層の厚みを感じます。

歓談の後に、現代も大泉高校で用務員として元気に活躍され、時おり高校に行く私達を、いつものあの笑顔で迎えて下さる前田さんが、勤続三十年を記念して都より銀杯が贈呈されることになっていましたので、いずみ会からも、長年の御苦労に対する感謝の気持ちとして、花束と記念品を贈呈させていただきました。花は、時期としては少し早かったのですが、母の日にちなみカーネーションに、また記念品は、高価なものではありませんが、日頃の前田さんに最もふさわしいのではと思い、エプロンにいたしました。それを受け取った時の、うれしいような、照れたようなお顔を今でも思い出します。

その後、前田さんが、大泉での三十年間の思いを込めた自作の歌を披露して下さいましたが、さまざまな出来事が去来したのでしょうか、声も震えておられました。その歌が静まりかえった会場に響きわたったことが印象的でした。

また当日は、以前大泉高校におられた間瀬先生（七代校長）、花咲先生、現在も教鞭をとられている橋本先生、佐藤先生、菊谷先生がお見えになりましたので、大泉時代の思い出、近況などをお話ししていただきました。在校当時を思い起こし懐かしんだり、自分の知らない頃の大泉の様子に思いを巡らせるひとときでした。そして恒例となりました応援団OB諸君の指揮による校友の歌を唄い、閉会となりました。

同窓会は、幅広い世代の人人の縦の人間関係によって成りたっていますので、クラス会や同期会とはまた違った趣きがあると思います。人間関係の拠りどころは、共に同窓生であるということだけではありますが、それ以外になにもなくとも、幅広い人々と、触れ合いができるのが同窓会ではないでしょうか。今年も総会が行なわれます。このひとつの機会に、是非お出掛け下さい。（二四期大塚）

まずは、カンパーイ！

前田さん、自作の歌を披露

二十九期生全員集合

後はみんなで和気あいあい

総会へのお誘い

「校友の歌、私達の頃はなかったんです。でもいい歌だなあ。」――中学二期・男――

「私は遠くに越してしまうので総会もこれが最後になると思います。前田さんの歌いつまでも忘れません・・・。」

――高校十九期・女――

「こわかった先生もここではお父さんみたいでした。」

――高校二十九期・女――

さまざまな思い出を残して五十二年度総会の幕はおりた。そしてまた大泉の桜並木が色ずく候となり総会の季節がやってきた。春は出逢いの時、出発の時。昔の夢を語るもよし、なつかしむもよし、同窓会は再会の場だけではなく、新なる出逢いの場でもある。それはまた新なる自分自身の発見であるかもしれない。年に一度だけ、そんな集いがあってもいい。五十三年度総会はもうすぐ。散歩がてらにお寄り下さい。もうひとりの自分ともうひとつの夢を見つけるために・・・・・。

総会のご案内

"30期生を迎えて"

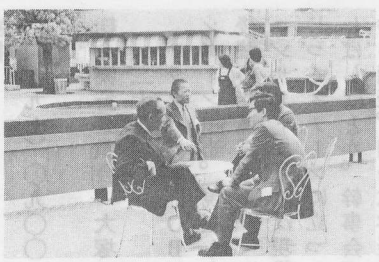
5月7日（日）　午後1時

会場　石神井庁舎
（西武池袋線石神井公園下車）

会費　2,000円
1,000円（学生）

お子様連れもふえました

間瀬校長、いつまでもDANDYです。



「先生、お久しぶりです。」

「橋本先生おとりします。」

幹事会より

新組織図及び幹部紹介

いずみ会組織図

- 顧問（国語科，橋本精一）（数学科，菊谷義美）（数学科，本田正俊）
- 会長（中2，池辺）
- 副会長（高4，佐々木）
- 幹事会
  - 経理局（高24，榎本）　◦経理全搬
  - 事務局（高8，山谷）　◦名簿改正
  - 総集局（高24，葛生）　◦会報編集，発送
  - 総会実行委員会（高24，大塚）　◦総会の企画，運営

いずみ会をより円滑に運営していくための新組織がこのほど幹事会で承認された。これはいずみ会の機能を経理局、事務局、編集局、総会実行委員会の四つに分けそれぞれの責任範囲を明らかにしたもの。二十九期幹事より試験的にこの組織に基ずいて活動していたが、今後各期の幹事はこの四つの部門のいずれかに属することになる。これによって新しい幹事がすみやかに会活動に参加できる事はもちろんより能率的に会運営ができる事になった。それにともない責任者も若返りを計り、斬進性に富んだものとなった。

また大泉高校側からも体育科山谷先生はじめ、国語科橋本先生、数学科本田先生、菊谷先生を相談役としてむかえ、密接な連絡をとりあって高校と一体化した会作りを目指している。

各部門の責任者は、皆様からのアイディアやご意見をお待ちしています。どしどしおよせ下さい。

各部門幹事紹介

経理局　榎本隆広（二十四期）

バスケットボール部ＯＢ。在学中は部長を務め、その後も後輩のめんどうをよく見ている。大泉バスケットボール部ＯＢで結成したチーム「フアウンテン」のメンバーでもある。東京農工大農学部を経て、現在は江戸川女子高で生物を教えている。

（九九七）七四八一

事務局　山谷敬之（八期）

大泉の体育科の先生としてまたいずみ会の幹事として両面の活躍をしている。スポーツマンであることはもちろん、あの真黒い親しみのあるお顔は若い期の会員にとっては頼りがいのある兄貴のような存在である。東京教育大卒。

（大泉高校内）

葛生寛（二十四期）

軽音楽同好会ＯＢで在学中はベース担当、コンサートでは自作の曲を披露したこともある。中央大学法学部を経て出版社日本ヴォーグ社に勤め本格的な編集マンを目指し勉強中。

（九九七）〇九〇〇

総会実行委員会　大塚正志（二十四期）

ブラスバンド部ＯＢでトロンボーン担当。現在も大泉で後輩の指導にあたり、文化祭、コンサートなどでは現役にまじってステージに立つこともしばしばとか。幹事会でも一番の酒豪。明治大学経営学部を経て、千葉県教員養成所で小学校の先生になるために研修している。

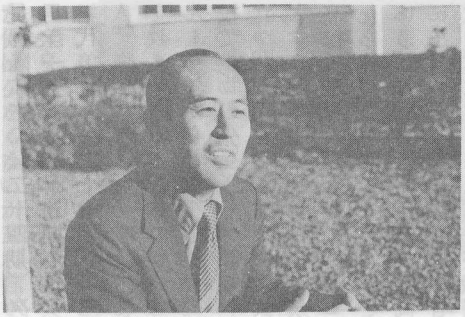
（三三八）七五九二

副会長　佐々木健雄（高校四期）

現在は理容美容専門学校である佐々木学園の理事。その顔の広さは定評があり、幹事会会場や総会会場の手配を一手にひきうけている。陽気なキャラクターで幹事会を常に明るくしている。中央大学経済学部卒。

（九五二）〇四八六

会長さん、こんにちは



いずみ会の現会長は池辺祥さん。（昭和四年生まれ、中学二期）早稲田大学文学部演劇科に学んだ会長さんは、その昔は？演劇青年だった。学生時代はもちろん、現在もお勤めの弁理士事務所にはいってからも数年間は「文化座」で舞台演出を手がけていた。

「当時は新劇でしたが、やはり映画の方をやりたかったですねえ。」

会長さんは女優の香川京子さんのお兄さん。妹さんもお兄さんの影響大というところですか。

「いやいや、あいつはなんの相談もなしに勝手にああいうことを始めてしまったんですよ。」

笑った目もとは兄妹よく似ていますね。

（妹さんは女優の香川京子さん）

会長さんの大泉での思い出は「戦争なしには考えられません。」とのこと。海軍兵学校に学び終戦後、大泉に復学し卒業したのですからまさに、大泉時代は戦争の時代ということになりましょう。そんな動乱の中でも飯能の山へ遠足に行ったことなどは楽しい思い出。また、大雪の降った冬の日、できたばかりの生徒会のリーダーだった会長さんが先生方をときふせて全校で雪合戦をしたことは忘れられないそうです。昔から何事につけてもリーダーシップを握っていたのですね。

「私たちのころは、大泉の生徒は『背中でわかる』といわれていましたが最近はずい分スマートになりましたねえ。」

かつて大泉は、「質実剛健」といった校風だったそうですが、時代の移り変わりは校風をも風化してしまったようです。会長さんには高校生のお子さんがいらっしゃいますがまさに親子ほどはなれているいずみ会会員をまとめていくのはさぞむずかしい事でしょう。

「同じ学校を巣立っていった人達でも年令や環境はさまざま。学校に対する考え方もまたちがうでしょう。しかし同窓会はそうしたものを越えてさまざまな人とめぐり逢える。そんな中で私自身も学び、またいつまでも若くありたいと思います。」

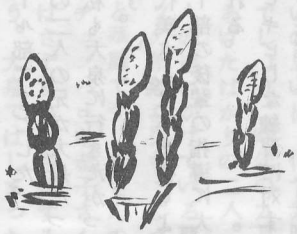
会長さんはよく若い期の人達に話しかける。

「君達、大泉の頃数学で悩んだことはないですか。実はうちの子が不得手でねえ、心配しているんですよ。」

「ぼく達もずい分、苦労しましたよ。」

そういうとほっと安心したように顔をほころばす。若い期の人達の前ではやさしいお父さんにもどってしまうのですね。

池辺会長のあの澄んだ、やさしいまなざしが見つめている限り、いずみ会のなごやかさはいつまでも消えない。



池辺君とは同じクラスだったんですよ。彼は級長でしたからも信頼された存在でした。

彼は演劇の方面に進み、私は数学でしたから卒業してからはそれぞれまったく別の道を歩んだわけで、同窓会の事で久しぶりに会った時はお互い親父になっていましたよ。昔からそうでしたが何か人をひきつける魅力があるんですね彼には。今でも特に若い期の人達とは和気あいあいとやってますね。私も教職につく身として見習いたいですよ。それに会長の職もサラリーマン生活と両立するのは大変な事だと思いますが、人一倍責任感の強い彼は、少ない時間の中でせいいっぱいやりこなしています。（会長さんは毎日平塚の自宅から有楽町の事務所までかよわれている）私にとっては彼は今でも級長ですよ。〈〈同期生数学科菊谷先生のお話〉〉

大泉ファミリー

あに・おとうと・そしていもうと・・・。

いずみ会の経理局の責任者榎本隆広さんの三人の兄弟は全員いずみ会のメンバーだ。長男隆広さん（二十四期）次男洋一さん（二十五期）長女紀代美さん（二十七期）の三人。隆広さんは女子高で生物を教えているが、弟の洋一さんも今年から都立千歳ヶ丘高校で生物の先生として教壇に立つ。紀代美さんは東京学芸大学の四年生で今秋には大泉高校で教育実習をして卒業したら体育の先生になりたいという。洋一さんが千歳ヶ丘高に決まったのも校長先生が昔大泉で教えていたことが縁だというのだから三人ともまさに大泉とは切っても切れない間柄。隆広さんは大泉での思い出はバスケットの事ばかりだという。スポーツマンの隆広さんは現在も自分の学校のバスケット部の顧問として指導にあたっている。

「ぼくは部活動を通じて、協同生活の体験と何でもやりぬいていけるんだという自信を持つことができました。そのことを自分の教え子達にも伝えたいと思っているんです。」

大泉バスケット部で学んだことを教員となった今でも生かしている。また、

「数学の坂間先生に数学的ものの考え方、論理的ものの見方といったものを学びました。」と話す。その坂間先生は現在文部省で働いておられるが、大泉の忘れられない先生のひとりだそうだ。

洋一さんはお兄さんとは対照的に生物部で自分の好きな研究に没頭していた。

「一年生になりたての頃体育祭で見たマスコットや応援団はとても印象的でした。」

大泉の体育祭は五月。一年生にとっては最初の大きな行事なので誰しも感激するだろう。お兄さんと同じ道を選んだのは、

「ぼくは自分の好きなことをやっていきたいと思って教員を目指してきました。兄とはたまたま同じになってしまっただけです。」とのこと。

教員として見る大泉はどうでしょう。

「一年間、非常勤講師として他の高校に行ってわかったことですが、今は点数主義者というのですかそういうかたぶつが多くなってきたようです。大泉にはもっとおおらかな雰囲気があったと思います。あの自由な雰囲気を今度は自分みずから作りだしていく、そんな先生になりたいと思っています。」

一番下の紀代美さんは隆広さんと同じように三年間バレーボール部ですごした。

「上の二人の兄が大泉だったので私も大泉に行きたかったんです。」

紀代美さんは卒業後もよくバレー部の後輩の指導に大泉を訪れる。

「キビキビした練習に対する態度や先輩に対する礼義正しさは大泉バレー部の良き伝統として今でも生き続けています。」

また昨年は臨海学校に助教として参加、在校生との接触も多い。そんな時の楽しさが忘れられないのか、上の二人の兄の影響なのか体育の教員を目指している。

「大泉の先生では現国の牧野先生が心に残っています。理知的ないかにも先生らしい先生でした。」

ところで上の二人の兄さん達の妹評は

「まだまだ甘えん坊なんですよ。それでも大泉でのバレー部の経験は、紀代美を芯の強い人間にしてくれたと思います。」

お兄さんはこういっていますが、どんなお兄さん達ですか。

「隆広兄さんは、お人好しの世話好きで、たのまれると断われないという性格です。洋一兄さんは、真面目すぎるくらい真面目です。でも自分が一度こうだと思うと後にはひかないところがありますね。」

三人とも大泉を巣立ち、それぞれの大泉での体験を自分の教え子達に伝えようとしている。三人の感じ方は少しずつちがっているかもしれない。それでもまちがいなく大泉の雰囲気や伝統はどこかにもち続けているはずだ。これからこの三人から教えをこう人達が何百人、何千人でてくるだろう。そうした何百、何千の人達に大泉のよき雰囲気、よき伝統が伝えられるのだとしたらどんなにすばらしいことだろう。三人にとっての大泉は出身高校ではなくひとつの原点なのだ。

かれとかのじょと

大泉の同窓生同志が結ばれた例は少なくないが玉利桂さん（二十二期）恭子さん（二十四期）夫妻もそんなカップルのひとつ。

桂さんはバロック音楽が好きで友達と音楽部鑑賞班を結成。そこに入部してきたのが恭子さん。ある時「日フィル」のコンサートで偶然にあってから二人の恋は燃えあがったのでした。桂さんは高校時代からチェンバロに魅せられぜひ自分の手で作り上げたいと思うようになったそうです。「楽器もどんどん近代化していく傾向があるのですがぼくの作りたいのは、その楽器の本来の形、バロックが生まれた当時の音を再現したいのです。」

チェンバロを語る桂さんの眼は輝く。それはひとつの楽器にかけた男の執念か。大学も音大ではなくむしろ実際に必要な工芸技術を身につけるために学芸大の美術科にすすんでいる。

恭子さんは武蔵野音大のピアノ科を卒業して現在はピアノ教師となって家庭や音楽教室をかけまわっているが、「いっしょに暮してみたいと思う人は音楽にかかわりのある人以外は考えられませんでした。」という。

二人のデートの場所はもっぱら石神井公園。ここで音楽の夢をそして二人の夢を育てた。

桂さんの大泉での思い出は高校闘争だという。「純粋だったということもあるけれど政治的な発言や行動が自由だったし、やはり熱い時代でした。」

恭子さんの方は「とにかくお友達がたくさんできました。今でもおつきあいしている人も多いんです。でもやっぱり桂さんと知りあえたことが一番の思い出かしら・・・。」

家庭での桂さんは早起きでお料理じょうずの本当によいダンナさまだそうです・・！

（高校の玄関にある この像のモデルは 桂さん）

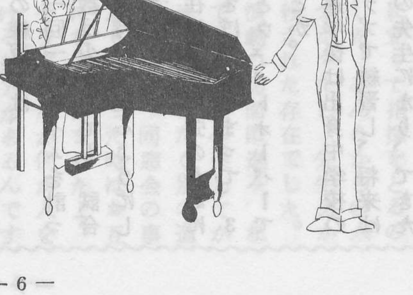
こんな二人の夢がひとつずつ実現にむかっている。そのひとつはもうすぐ完成する二人の新居。といってもほとんどは桂さんがチェンバロを作るための工房になるそうです。

「自分の工房でおもいきり時間をかけて納得のいく楽器を作りたい。そしてそれで、恭子に本物の音をひかせたいんです。」

音楽を通じて結ばれた二人の音楽への夢は大きく大きくふくらんでゆく。

「高校時代というのは、ひとりひとりが本当に素顔でいると思うんです。あの時期をすぎてしまうと、それぞれが『から』を作ってしまいその中にとじこもりがちになってしまう。だから純粋なままで知りあえた高校時代の友達は大切にしたい。その頃に二人知りあえたのだから本当にしあわせだと思っています。」

大泉での思い出はまた二人の出逢いの思い出、何て素晴しいんでしょう。昨年の九月に式をあげたばかりの二人。その二人の追いかけている夢はバロック音楽よりも、もっともっと華麗です。桂さんの作ったチェンバロを恭子さんがひけばさぞ甘い音色がするでしょう。大泉ではじまった二人のラブストーリーはいつまでも続きます。バラ色の音につつまれて・・・・。



今学校では

＜二年ホームルーム合宿＞

交通事情の悪化や、本来の目的からはずれて＜遊び＞の意識が広まったことなどの理由で修学旅行が中止になってから四年が経過しました。こうしたなかで、新三年生が一年の時、学年の先生方が、従来の修学旅行のもっていた欠陥を除き、集団生活の体験を通じて心の交流をはかりうるものはないだろうか、と考えて生まれたのがホームルーム合宿です。

「団体生活を規律正しく送る中で日常のホームルーム活動を充実・発展させ、クラスの親睦をはかる」という狙いをもったこの合宿は、昨年十月十三日から二泊三日のスケジュールで伊豆大島のセミナーハウスに於いて行なわれました。第一日目の夜は合宿の＜目玉商品＞であるホームルーム討議が開かれ、太平洋に浮かぶ島の上で一つ釜のめしを食い、ひざを突き合わせて友と語るという普段とは全く異なる環境の中、いつもの固い口も自然にほころび、内にこもりがちであった心も大きく開いたようです。二日目の三原山登山と夜のキャンプファイヤー、三日目午前中の全体集会（ホームルーム討議の集約）も、好天に恵まれ予定通り行なわれました。

合宿終了後アンケートが行なわれ、生徒側も教職員側と同様に肯定的意見が多いということで、今年度も合宿が行なわれることになりました。

いずれにしても、ホームルーム合宿は修学旅行に代わるものとして、新たなる方向への第一歩となったことには間違いないようです。

＜卒業記念パーティー＞

この三月十五日、体育館に於ける卒業式の終了後、卒業記念パーティーが開かれました。謝恩会はここ十年近く行なわれていませんが、このパーティーも謝恩会とは異なり卒業生の、卒業生による、卒業生のためのパーティーです。参加は自由、参加希望者は入場券を購買し、模擬店の食券も有料というパーティーでしたが、入試も国立二期校など一部を残すだけで一息ついたせいもあるのか、多数が参加し、ゲストとしてテレビ等で活躍の本校卒業生・石毛恭子さんを迎えるなど、高校生活最後の楽しい思い出となりました。

やったぜ先輩

（徳本さん）

徳本聰美さん（陸上部）が四〇〇メートルで大活躍し、数々のすばらしい記録を残しました。

全国高校陸上競技大会（インターハイ）

第五位（五七秒三二）

日本陸上競技選手権大会

第五位（五七秒五三）

ジュニアオリンピック（一六ー一九才）陸上競技選手権大会

第一位（五六秒七〇）

気が小さく、試合前はいつもあがってしまうという徳本さん、陸上を始めたのは中学からで、当時足の遅かった彼女を、友達が冗談半分に陸上部へ入部するよう勧めたのがきっかけだそうです。

普段の練習では、

「私は一回一回タイムを計って、回数は少なくても、試合と同じ気持ちで走るようにしています。」

「現在は受験勉強のために練習をさぼってしまって、3キロほどウェイトオーバーです。」とか。

大学進学後は出身中学校のOBクラブで練習し、将来は「国語の先生になり、できたら陸上部の顧問として選手といっしょに走りたい。」と語っていました。

集まってます

大泉籠球会

バスケットボール部は現役の成績としては、男子が一昨年度関東大会、インターハイ両予選で都ベスト16に入るものが近年の筆頭であります。顧問に昨年よりOBの中川先輩を迎え、現役の指導体制は名実ともに充実しております。

ここ数年、特にOBと現役の結びつきが強固なものとなっており、練習のある日にOBの姿がみえないことはありません。その結びつきはとても良い方向にむいており、コートを離れると、気易く話したり、相談相手になったり、現役とOBとの交流は尽きることがありません。

また年一度、原則として母校体育館に於いて企画性に富んだ楽しい総会を開催しております。会長の安藤氏を筆頭に、若手の中心アンタカこと安藤孝男氏に至るまで、老若男女が渾然一体となって一同バスケットに感ける訳です。

その他のOB会の活動としては、年間を通じて区民大会に参加し、多くのバスケット愛好者との交流を深めると同時に好成績をも収めております。

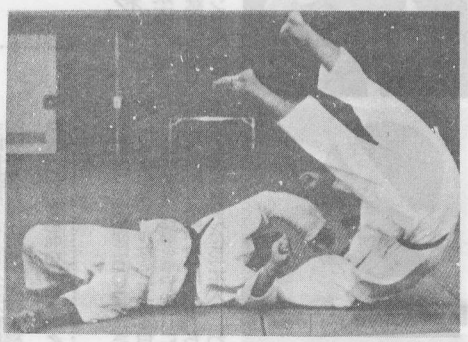
私達、バスケットOB会の特筆すべきところは、年々絶え間なく新たな後輩を迎えつつ、高校時代の思い出を大切にいつまでも心に滞めつつ、現役とOBとが一体となって良き伝統を維持創造していることだと思います。

私もOBの一員として、その名に恥じない社会人となるべく精進してゆくつもりです。

二十六期　大原宏司
（早大法学部）

がんばれ、みじめOB！

僕が柔道部の現役として活躍（注、あまり活躍はしなかったけどカッコつかないから。）していた時、一番いやだったのが年に一度のOB総会でした。総会が次第に近づいてくると僕の身体は微妙な変調を来たすのです。二、三日前になると原因不明の熱が出て、これでOB会に出なくてすみそうだなんて喜んでいると、不思議に前日には平熱に戻りサボる理由がなくなる。当日になると今度はOB達が来たくなくなるような大雨でも降らないものかと空を仰いでみれば、こういう日に限って皮肉にも日本晴れ。とうとう観念して練習に出てOBのほうを見れば、な、なんとすごい。みんな相撲取りみたいな大男達ばかりです。中には僕が生まれた昭和三十三年卒業なんていう古強者もいます。



さて、いよいよ練習が始まると僕のような小さな身体の現役はOBのいいカモにされます。彼らは一見強そうに見えますが、実際は柔道なんか数年ぶりという連中ばかり。だからあまり強いレギュラーとやると投げられて後輩に示しがつかないから僕みたいな万年補欠を相手にするんです。カモにされる僕のほうはたまったもんじゃありません。かくして練習が終るころには身も心もズタズタになっているわけで・・。この時僕は心中秘かに誓いを立てました。

「オレだけはOBになっても決して現役をいじめるようなことはすまい・・。」現在OBになって一年目ですが、この誓いは破ってはいません。しかし反対に現役に投げ飛ばされ、彼らのいいカモにされているばかりか、OB会からはOBの名誉を汚す不届者と言われ、みんなから白眼視されている有様です。こんなみじめなOBも世間にはいるのです。僕と同じような境遇の方がいらっしゃいましたら御一報下さい。互いに慰めあい、団結しようではありませんか。

二十九期　大久保　靖
（青学大文学部）

おめでとう おばさん

大泉の門をくぐると笑顔で前田さんが迎えてくれた。戦後間もない昭和二十二年一月から大泉に勤務して三十年、昨年九月十三日に都体育館で東京都における勤続三十年の表彰式が行なわれ、海老根甲先生（化学）、佐藤正先生（物理）と共に、銀杯をお受けになられた。

式典での美濃部都知事の「終戦二年目といえば、何もかもが本当に苦しい時期。それ故、皆様は勿論、御家族の方方の御協力によって支えられ今日まで来られたことを感謝しております。」という祝辞を聞いたとき、御主人や家までもなくされ、幼い子供さん三人を抱えていた当時の辛い思い出がよみがえり、思わず目頭が熱くなったという。

「前半の十五年間は、戦後のごたごたしていた時期でもあったことだし、とにかく子供たちを一人前にしようと一生懸命。あとの十五年は、皆さんの笑顔を心の糧（かて）として、何とかやってきました。」と前田さん。

毎年やって来る教育実習生や、文化祭前などには生徒たちが、よく急ぎの印刷物を前田さんにお願いすることがある。そのことについて前田さんは

「それをやるのは私の生きがいでもあり、楽しみでもあるのよ。誰にも頼まれなくなったら、私なんかいたってしようがない。」と笑いながら言う。

甘い物が好きで、アルコールの入った宴会などの雰囲気が好きで、そして何よりも歌が大好きという前田さん。

「大泉の悪口を言われると、本当にしゃくにさわるの。」とムキになったように言うくらい、誰よりもこの大泉を愛している前田さん。そんな前田さんと話をしていると、いつしか大泉時代のいろいろなことが思い出されてくる。

帰りしな、アッという間に過ぎてしまったというこの三十年間、楽しいことと苦しいことの、どちらの方が多かったですか、と尋ねると、苦しいことの方が多かった、という答えが返ってきた。

「いつまでもお元気で…。」そう心で祈って部屋を出た。

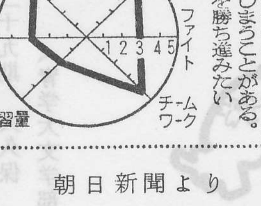
新聞によりますと

一昨年夏の高校野球予選のことは、新聞等で御存知でしょうか。シード校となった我が校野球部は、最初の試合で宿敵石神井高校と対決。二十一三振を奪いながら惜しくも延長戦でサヨナラ負け。口惜しい思いをしたのは、決して野球部員だけではなかったはずです。

都大泉

投	臼井武吉	③
捕	守屋董治	③
一	野口守	③
二	◎北地哲文	③
三	石田幹雄	③
遊	平林裕治	②
左	中津和己	②
中	厨川研二	②
右	関口尚文	①
補	田之口祐	②
〃	西山新嗣	②
〃	神林秀康	①
〃	増山和広	①
〃	杉山智	①

〈北地哲文〉好機に集中打が出るが相手のペースで試合をしてしまうことがある。一戦一戦を勝ち進みたい



朝日新聞より

女子も彩り
都大泉応援席

八王子球場の第二試合に出場した都大泉の応援スタンドに、学生服姿のいかつい応援団に混じって赤、白、青のカラフルなミニスカート部隊が登場、球場を華やかに彩った。同校二年の中村悦子、山本圭子、原利枝さんたち二十人。さる五月、同校で行われた赤、白、青の三組対抗の体育祭のためにつくられた応援団のメンバーたち。男子生徒応援団と身振りを合わせて「フレー、フレー」。

力の限り、田畑博章君

一服、奥山博君

ピー、山本圭子さん

読売新聞より

教職員の異動（五十二年）

・さようなら・転任

草野和郎先生（英語）
（国立高校へ）

杉田豊子先生（英語）
（文京大学へ）

植村　薫さん（事務長）
（武蔵高校へ）

池田和子さん（事務）
（富士高校へ）

粕野和野さん（事務）
（新設校の大泉北高へ）

中村成子さん（事務）
（松原高校へ）

栗原弥五郎さん（用務）
（大泉北高校へ）

・こんにちは・新任

田村　茂先生（英語）
（淵江高校より）

西山三郎先生（英語）
（川崎北高校より）

伊藤礼之さん（事務長）
（昭和高校より）

各期の幹事紹介

「僕は今、新しい学校で頑張ってます。皆さんも今後の進路はそれぞれ違うでしょうが、精一杯やってくださいね。」――卒業記念パーティーで（草野和郎先生）

「私が大泉に来た当時（昭和二十八年）は、周辺に茶畑があって、空気もよかったですね。でもグランドの状態はひどくて、雨の日には膝ほどの高さまで水がたまりました。それから、体育祭では仮装行列が盛大に行なわれてまして、近くの学校と日程が重なったときには、そちらの観客が、ぞろぞろと見に来たくらいでした。」（杉田豊子先生）

中学三期　鰐川省三
（大泉高校内）

高校一期　事務所（二五三）二七四〇

高校二期　谷　秀男
豊・長崎五ー一〇ー九
（九五七）六五一四

高校三期　中山茂雄
練・石神井町七ー二七ー二三
（九九五）八四七一

高校四期　佐々木健雄
豊・南長崎四ー四一ー一〇
（九五二）〇四八六

高校五期　田中依子
練・春日町一九四
（九九九）六〇〇一

高校六期　篠　匡昭
練・旭丘一ー六七
（九五三）三三三六

高校七期　遠藤　寛
練・東大泉三五四
（九二二）五二四〇

高校八期　山谷敬之
練・東大泉三八〇
（大泉高校内）

高校九期　高麗邦子
保谷市東町二ー六ー二一

高校十四期　吉田登代子
練・東大泉三八〇

高校十五期　藤高和信
千葉市穴川四ー九ー七
（〇四七）五四ー五九四一

高校十六期　高野　泰
中野・野方五ー七ー一二
（三三九）八七三二

高校十八期　古屋一仁
練・南大泉二八二ー四七
（九二二）五九七五

高校十九期　石井清敏
東村山市萩山町四ー一五ー三〇
（〇四二三）九四ー二七五一

高校二十期　西尾淑人
練・大泉学園町一一五
（九二四）〇七二五

高校二十一期　守本　純
練・春日町五ー一九ー六
（九九〇）五九八五

高校二十二期　向原粧子
東大和市清水二ー八四一ー二　清水コーポ
（〇四二五）六四ー四〇七一

高校二十三期　平野博文
練・北大泉一〇一三
（九二二）八二五二

高校二十四期　榎本隆広
練・南田中二ー一六ー二
（九九七）七四八一

高校二十五期　笠原美貴枝
練・東大泉一八二
（九二二）七八五四

高校二十六期　高橋文雄
杉・下井草四ー一六ー一四
（三九九）九七〇二

高校二十七期　吉野健三
練・東大泉一三〇
（九二四）五一一九

高校二十八期　西沢正博
練・石神井町三ー一八ー一七
（九九七）四五八五

高校二十九期　杉山正樹
中野・大和町二ー一二ー四
（三三九）二八二四

高校三十期　篠原　裕
杉・宮前一ー九ー一三
（三三二）二五〇六

高校十期・十一期・十二期・十三期・十七期の幹事の方、大泉高校同窓会あてに連絡をお願いいたします。

52 年度合格状況

大学名	合格数	大学名	合格数	大学名	合格数
北海道大	1	立教大	34	国立音大	2
筑波大	2	上智大	19	武蔵野美大	7
千葉大	16	東京理科大	31	実践女子大	7
東京大	6	青山学院大	31	明治薬大	1
お茶の水大	2	国学院大	8	星薬大	1
東京芸術大	6	学習院大	13	共立薬大	1
東工大	1	成蹊大	30	東京薬大	5
一橋大	1	成城大	3	北里大	6
埼玉大	9	東洋大	6	その他私大	88
電通大	4	東京女子大	5	私立大合計	631
東京外語大	2	日本女子大	12	青山女子短	11
東京学芸大	11	津田塾大	5	跡見学園短	4
東京商船大	2	独協大	8	大妻女子短	8
東京農工大	2	明治大	40	学習院短	2
横浜国立大	4	中央大	44	共立女子短	11
信州大	1	日本大	38	恵泉女学園短	2
京都教育大	1	法政大	28	実践女子短	2
京都工繊大	1	共立女子大	7	東京女子短	15
都立大	6	I・C・U	2	東洋英和女学院	3
横浜市立大	3	東海大	8	その他短大	25
都留文科大	1	明治学院大	11	短大合計	83
京都府立大	1	武蔵大	22	各種学校	27
国公立合計	83	武蔵工大	11	就職	4
早大	60	芝浦工大	6		
慶応大	24	武蔵野音大	7		

会計報告（53・2・8）

収入の部

昭和五二年一月二六日残高　五三三六二九円
五二年度会費　八一四〇〇〇円
合計　一三四七六二九円

支出の部

卒業生贈り物（紙筒）　四一五〇〇円
名簿　五二年三月（二九期）　一二〇〇〇〇円
会報第二〇号　三六〇〇〇〇円
総会（52・4・24）　一四〇〇〇〇円
幹事会　六八五一〇円
会報発送郵税　四六九二〇〇円
同右雑費　七六一八〇円
アルバム　七三四五円
切手・ハガキ　六六三〇円
合計　一二八九三六五円
残高　五八二六四円

郵便料金値上げのため、昨年度はその前回（二九三八〇〇円）に比べて、大幅に発送費用が増えています。少しでも無駄をなくすために、住所移転、姓名変更などの際は、同窓会まで御一報ください。

こちら編集部

今回の会報も多くのいずみ会の会員の協力により発行することができました。協力してくれた方を次に紹介いたします。今後もひとりでも多くの会員の参加をお待ちしています。

表紙・中川るな（二十九期、女子美術大）

「緑いっぱいの大泉。都心の学校にかよう私にとって、緑はまた郷愁のイメージ・・。」

カット＆レタリング　中川るな・高橋典子（三十期、練馬高等保母学校）

写真・前岡正憲（二十九期、日本大学歯学部）

ありがとう！

「編集の仕事初めてですけどいろいろ勉強になりました。特に競馬にはくわしくなりました。先輩ありがとう！」（乙女座宮）

「取材を通じてさまざまな人達の人生をかいま見ることができました。いずみ会会員のための会報をとがんばってきましたが、それはまた私自身のための会報でもありました。」（サムライ）

「いやー実によく飲みましたねえ、コーヒーとお酒。時には原稿をそっちのけにして、・・・。でもよき会報は残らずともよき仲間は残った？。」（ひとり芝居）

「陽気もよくなりました。会報片手に、寝そべりながら高校時代のアルバムを眺めるなんていうのはいかがですか。」（サウスポー）

第二十一号
昭和五十三年四月一日
発行所　いずみ会
東京都練馬区東大泉三八〇
東京都立大泉高等学校内
編集　いずみ会々報編集部
印刷所　(有)昭映社